

◆校長のことば（令和4年 第44回入学式祝辞）

本日、第44回入学式を迎えることができました。

ご来賓として、学校法人茗溪学園理事長 中川喜久治様、茗溪学園父母会会長 中田俊之様にご臨席を賜り、また多数の保護者の皆様にご参列を頂きましたこと、深く感謝申し上げます。

本日、47回生として中学一年生に入学された236名の皆さん、44回生として高校一年生に入学された44名の皆さん。ご入学おめでとうございます。

教職員、在校生一同、新入生の皆さんを心より歓迎致します。

さて、2020年3月の新型コロナウイルス感染拡大により、非常事態宣言に起因する全国的な学校閉鎖から2年が経過致しました。この2年の過程で受験となった皆さんは、とても困難な環境での受験準備であったと思います。そのような困難な環境を経て、本日、茗溪学園にご入学頂きましたこと、改めて感謝申し上げます。

今、社会は大きく変わろうとしています。そして、過去とは異なる次世代の価値観が生まれようとしています。これまで日本の教育は「集団の中での、個人の育成」を重視してきました。集団での個人の役割、協調性など集団の中で個人がどうあるべきか、どう振る舞うべきかを求められてきましたが、この先の時代の社会では、「独立した個人」も求められていきます。これまでの「集団の中の個人」という考え方から、「自分のために」、「好きなことを」、「自分で考えて」、「自分で決める」というような生き方が批判されにくい時代にもなります。そこで、幸せ、幸福という価値観も変化をしていきます。

新入生の皆さんは、幸せ、幸福の価値を、どこに求めますか？

自分にとって幸せなことは、なんですか？

ご列席の保護者の皆様や、私たちの世代は、「受験偏差値」を軸とした大学進学、就職や昇進、そして収入が幸せに対する主な価値や定義と考えられた時代を過ごしてきました。その考え方は今も日本社会では大きな価値観として受け止められています。中学、高校、大学において、主に「受験偏差値」を基軸とした学力観、進学や就職の、「椅子取りゲーム」とでも言うべき競争によって、幸せの価値を決めてきた場面がありました。本来幸せには、物質的な面もさることながら、自らが好む、自らが望む進路に進む、生活をするという幸福もあります。ポジションやステイタス、収入だけに偏らない、自身の「興味関心」を軸とした、職業に就くこと、そのような生活を目指すということが否定されず、認められていく時代にこれからはなっていくと考えます。

日本の社会において、未だに中学や高校の段階では、興味関心や、将来観を持つ事よりも「目先の受験勉強」が重視されています。そして、将来を決めるのは、大学の段階であり、就職活動の段階である、というような考え方もあります。しかし、現在の大学は、学業と共にインターンシップやボランティア活動、留学など、1年生の段階からキャリアを付け、社会に出ていく準備をする段階であり、ゆっくりと自分探しをしている段階ではありません。また、就職をしても、私たち世代が過ごした時代のように、一つの会社、一つの団体で、定年退職するまで働くというような、また、「一所懸命」な働き方は、少なくなっています。そして、自らチャンスを探して、一つの会社、一つの場所、一つの場面にこだわらない、働き方、生き方になっていきます。様々な場面で、私たち世代の「過去の経験」が当てはまらない時代を、未来を生きる皆さんは過ごしていくのです。

この先の時代は、次元の異なる夢やステージがあり、かつ、困難な環境が待っている可能性があります。そのような時代を生きる皆さんは、中学高校の段階で目標、目的意識を持ち、その目的に近づくための学習や諸活動を行いながら、学習と並行して「自分探し」をしていく段階にあります。仮に方向転換をしなければならない場面が来たとしても、慌てることなく、変化に対応していく。そのような「しなやか」な考え方と行動力を、茗溪学園在学中に身につけて欲しいと思います。

私は校長として、生徒の皆さんに受験勉強のみを軸とした「人生の椅子取りゲーム」に取り組みさせるつもりはありません。皆さんの進路や未来に、高低差などありません。

皆さんの未来にあるのは、皆さんが決める、皆さんなりの生き方です。この先の人生、18才や22才で決まるものではありません。私が生徒の皆さんに望むことは、茗溪学園での3年間、6年間という期間に基礎学力、受験学力の獲得と並行し、興味関心を軸とした「人生の椅子探し」をしてもらうことです。人生の椅子取りゲームではなく、「一人一人の、人生の椅子探し」、自分探しを行ってください。

茗溪学園は、筑波大学との連携協定の中で「Global 化推進」を一つの目的としています。

今後、2025年には高校生5%の約40名、そして2030年には、高校生10%、約80名を海外からの長期の留学生にすることを目標としています。

ここで言う長期留学生とは、茗溪学園高校で2年間、3年間を学び、茗溪学園高校の卒業資格を得て、世界中の大学に進学をしていく生徒のことです。新入生の47回生が高校に進学をする頃には、高校全体で50名を超える長期留学生が学んでいると思います。校内に複数の国、最終的には100名近い長期留学生が在籍することにより、学園内のさらなるグローバル化を図り、在校生と留学生が共に学び、協働することによる相互成長を目指していきます。

これは2020年度より開始予定であった計画でしたが、世界規模の新型コロナウイルス感染拡大により、これまで留学生の入国が閉ざされるという事態になっておりました。この3月に留学生の入国が緩和され、44回生の高校1年生には、現時点で11名の留学生をお迎えすることができました。そして、今回も5名の留学生が入国し、本日の入学式に参加頂いております。

この他に、本日は8名の留学生の皆さんが参列しております。このうちの4名は、42回生の高校3年生です。この留学生4名は、高校2年生にすでに編入していましたが昨年入国できなかったため、この1年間、茗溪学園から発信されたオンライン授業をそれぞれの母国において受講して頂いております。加えて、43回生である高校2年生の4名も、高校1年生としてすでに入学しておりましたが、同様に、オンライン授業を母国で受講しておりました。

以上の留学生8名の皆さんが、先月やっと入国できましたので、改めてこの入学式の場において、お祝いすることに致しました。留学生の皆さん、どうぞその場でご起立ください。この一年、あきらめないでよく頑張り、そして茗溪学園に来てくれました。会場にご列席の皆様、どうぞ拍手をお願い致します。

今年度は、引き続き世界から留学生たちが本校にやっけてまいります。2022年度は、25名を超える長期留学生が来校し、在籍する予定です。

最後になりますが、本校にご入学頂きました中学1年生236名、高校1年生44名の保護者の皆様。

全国数ある学校の中から本校をご選択くださいまして、誠にありがとうございます。

本日はご入学おめでとうございます。

令和4年4月8日
茗溪学園中学校高等学校
校長 宮崎 淳